

「人権」について語り合いましたよ

昨年度の阿蘇市人権作文集『かけはし』の中から3点の作品をご紹介します。
家族や身近な人との関係を見つめ直し、人権や差別について話し合ってみてはいかがでしょう。

「テレビ」

内牧小1年(現2年) 安藤百花

せんせいあのね、おとうさんがよこになって、テレビをみていたら、ねていました。わたしが、テレビをけしたら、「みよるとぞ。」といっぺ、おきました。

やきゆうは、おもしろかったですかあ？

「ねじり」

内牧小1年(現2年) 宇藤小夏

せんせいあのね、いつもねるとき、おとうさんがつかれているとき、ねごとで、「じちよう、じちよう、じちよう」といっぺ、じちようにおこっているよ。

ゆめのなかでも、おしごとしてるのかな？

「私の夢のきつかけ」

一の宮中2年(現3年) 井上雅妃

私の親は、二人で酪農をしています。二人は毎日、夜遅くまで働いています。幼い頃から私は親の仕事に興味があり、よく一緒に牛の世話をしています。

小さい頃は、親の帰りが遅くてよく牛舎に行きました。でも、成長していくと周囲の目や友だちの目が気になりました。仕事場の前を通る人の「くさい」や「キモイ」などの言葉がよく耳に入ってきました。私はその事がいやでたまりませんでした。仕事をしている親のこともきらいになりました。仕事場にも行きませんでした。

仕事場に行かなくなって、何ヶ月もたちました。お母さんが私に仕事場に来なくなった理由を聞いてきました。私は正直に言えず、「どうして、こんな仕事をしてんの？」と、いやみたらしく聞きました。すると、お母さんが、「動物が、牛が好きだからよ。」と答えました。私は(えっ?)と思いました。「それだけでしているの？」と不思議に思って聞きました。「子どもに命の大切さを教えるには、丁度いい職業だよ。自分の好きな事で生活できる、教育できるなんていい仕事だよ。」

お母さんは、私が幼いのでそう言ったのかもしれませんが、その時の私にとっては、かっこいい言葉でした。その頃から、(酪農関係の仕事がいいな)と夢見るようになりました。

時間がたち、私の夢は獣医へと変わっていききました。私がこの夢にたどりつけたのは、お父さんお母さんのおかげです。つらい事や悲しい事があるけど、私はお父さんたちがしている仕事が好きです。

民生委員・児童委員の欠員による後任が決まりました。

民生委員・児童委員(古神1区担当)の欠員に伴い新たに

宮部 絹代 さんが決定しました。

(任期は、平成22年11月30日までです。)

～民生委員・児童委員は、みんなの相談窓口です～

社会奉仕の精神をもって常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い社会福祉の増進に努めます。

民生委員・児童委員に関する問い合わせ先 健康福祉課 ☎22-3167